




**芦屋町の  
特別支援教育**

▷問い合わせ 学校教育係  
(☎223-3547)

芦屋町では、一人一人に合った特別支援教育のさらなる推進に取り組んでいます。



小中学校の特別支援学級を紹介します。

令和6年度 特別支援学級

	芦屋中学校	芦屋東小学校	芦屋小学校	山鹿小学校
知的学級	かがやき学級	たんぽぽ学級	こすもす学級	ひまわり学級
情緒学級	きらめき学級	パンジー学級	さくら学級	なのはな学級
難聴学級	*****	*****	あさがお学級	*****
肢体不自由学級	*****	つくし学級	*****	*****



**★芦屋町の  
特別支援教育の特色です**

- **すくすく発達相談**
- **巡回相談**

町では、臨床心理士が直接、幼稚園・保育所（園）や小中学校を訪問し、生活場面や授業中などのこどもの様子を観察して、その子に必要な支援の内容や方法を保育士や教員に助言しています。これらの相談をとおして、すべてのこどもが長期にわたる継続した支援を受けることができます。

また、保護者も「すくすく発達相談」や「巡回相談」を活用して、臨床心理士に相談をすることができます。



- **通級指導教室**

通級指導教室では、読み書きに時間がかかったり、友だちとのコミュニケーションがうまく取れなかったりするなど、学習面や行動面、対人面などで困りごとを抱えているこどもに対し、一人一人の状況に応じた指導を行います。こどもは通常学級に籍を置いているため、学校生活のほとんどは通常学級で過ごしますが、週に1～数時間、通級指導教室に移動し、それぞれの困りごとや課題に合わせた支援・指導を受けます。

芦屋町には通級指導をする教員が芦屋東小学校と芦屋中学校にいます。芦屋東小学校に在席している担当教員は町内3小学校を巡回して通級指導を行いますので、こどもが在籍するそれぞれの小学校で通級指導を受けることができます。

もし、こどもが学校生活に困っていたら、学校や教育委員会まで気軽に相談してください。



すくすく育て  
あしやっ子  
NO.191



▽問い合わせ 社会教育係  
(☎223 - 3546)

### 朝ごはんを食べましょう

最近、若い世代を中心に朝ごはんを食べない人が増えていきます。厚生労働省の調査によると、男女とも、高校を卒業する18歳から19歳で急増し、20歳代では約30%が、また小学生では、男子の約7%、女子の約5%が食べていないという結果が出ています。



朝ごはんは、1日の活動を行う上で重要なエネルギー源です。そこで今回は、朝ごはんを食べることの効果について紹介します。

#### ①体温の上昇効果

朝ごはんを食べることで、寝ている間に下がった体温が上昇

し、活動しやすい体になります。

#### ②脳への栄養補給

脳は「ブドウ糖」をエネルギーとして使っています。朝ごはんでは炭水化物を取ることで、体内でブドウ糖に分解され、脳のエネルギー源となります。

#### ③太りにくい体を作る

朝ごはんを食べないと、過度の空腹感で1回の食事の量が増え、食べ過ぎてしまいます。規則正しく食事を取らないと、1回の食事で体内に栄養素をため込もうとし、結果的には、肥満や生活習慣病の発症につながっていきます。

#### ④便秘の予防

朝ごはんを食べることにより、排便のリズムが作られます。食事を取ることで、腸が刺激され、排便しやすくなります。

このように、朝ごはんを食べることにより、多くの効果があります。また、朝ごはんを毎日食べていることもの方が、学力調査の平均正答率や体力合計点が高い傾向にあることが分かっています。

家庭でしっかりと朝ごはんを食べる習慣を身につけ、朝から元気に過ごせるようになりましょう。

## リーど通信 No. 53

### リーどぼらんていあキッズ 活動報告会・修了式

3月3日、リーどぼらんていあキッズの活動報告会・修了式を行いました。



活動報告会では、班ごとにボランティア活動で感じたことや学んだことなど、活動の成果を発表しました。保護者の皆さんが見守る中、緊張しながらも堂々と発表していました。



修了式では、1年間活動を行ってきたキッズに、活動認定証が授与されました。最後に、「ボランティア活動によるこどもの変化や成長」や「今後どのような活動を希望するか」などをテーマに保護者とキッズでの交流会を行いました。こどもの変化や成長では、「積極的に

なった」や「ボランティアに興味を持つようになった」、「人とのふれあいの方が上手になった」などの意見がありました。また、今後どのような活動を希望するかでは、「手話や点字の体験」や「保育園での読み聞かせ」、「芦屋町の文化のものづくり」などの意見がありました。



キッズたちは、さまざまなボランティア活動をとおして、責任意識や自主性が芽生えてきたようです。

ボランティア活動センターでは、令和6年度もボランティア活動への理解を深め、こどもの自主性を育み、成長に繋がる体験研修を計画していきます。

▽問い合わせ  
ボランティア活動センター  
(☎221・1011)